



近年、私たちは過去に経験したことのない豪雨に見舞われることが多くなりました。その結果、平野部では浸水被害が、山間地では土砂災害が毎年のように発生しています。また、近年は過去に豪雨による被害がなかった地域での被害が目立ちます。被災した時に困らないようにするため、普段からしっかり備えることが大切です。



ポイント

1

どんな被害が発生するのか?

河川の氾濫・土砂災害による 甚大な被害

台風等の影響により豪雨が発生すると、河川の氾濫やがけ崩れ・地すべり・土石流などの土砂災害が起こることがあり、最悪の場合、家屋が流出あるいは土砂に埋没し、死傷者が出ることもあります。

浸水により奪われる日常生活

家屋が浸水した場合、畳・家具類・冷蔵庫やテレビなどの電気製品・衣類・寝具類等が使用できなくなります。水に浸かっている壁も、裏側の建材が水を吸ってカビが発生する可能性があります。また、床の下には大量の泥が積もり、悪臭がいつまでも残ることもあります。



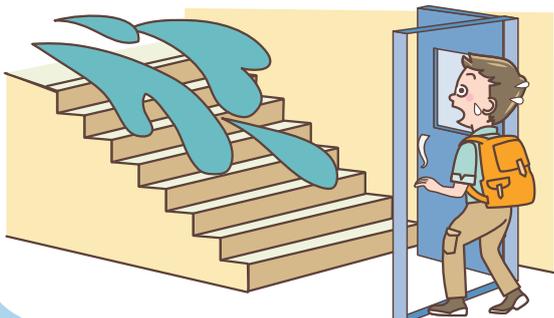
川の水が濁る、水位が減少する、地鳴りがするなど、災害が起こる前には普段と違う現象が起こることがあります。

ポイント

2

身を守るためには?

河川の氾濫や土砂災害は、突然、発生します。天候が荒れる前に、避難をしましょう。



地下や半地下は水没し、命にかかわる危険性もあります。大雨に関する情報を入手したら、速やかに地上へ避難しましょう。

まずは情報に注意すること

最も大事なことは、降雨状況や河川の水位上昇の見直しを確認し、危険性を把握することです。マスコミの情報だけでなく、インターネットなどを活用して情報を収集しましょう。自治体から「避難準備・高齢者等準備開始」など、避難に関する情報が出たらすぐに避難を開始しましょう。

身の危険を感じたら行動すること

自治体からの指示を待つことなく避難することが大切です。水の抵抗で歩きにくくなるので、水位が膝下より上になる前に避難をしましょう。仮に、屋外への避難が危険だと思った場合は、無理に外に出ることなく、2階以上の階層に避難します。豪雨の中、田畑を見に行った人が犠牲になったケースも見受けられます。危険行為は絶対にやめましょう。

ポイント
3

被災後の生活で困ることは？

想像以上に過酷な被災後の生活

まず困ることは、飲み水とトイレの水がないことです。次に、火や水を使わない食料が手に入らない、電気やガスが使えない、電話が使えないなど、すぐに不自由な生活を余儀なくされます。また、水害の後にはすぐに後片付けが始まります。そのとき、泥だらけの被災地を歩く長靴がない、断水で泥を洗い流すことができないなど、過去の水害では清掃関係での困りごとが多く見受けられます。



ポイント
4

被害を少しでも小さくするためには？

水害を最小限にするために備えること

- 家屋の老朽箇所の修理や雨どいの清掃をしていますか？
- 側溝・排水溝を清掃していますか？
- 土のうなどを準備していますか？
- 台風などで強風が発生した場合、ベランダなどに置いている植木鉢などの危険物を、屋内にしまっていますか？

*実際に豪雨に見舞われた際は、戸締りや雨戸・窓閉めを徹底することや、貴重品や衣料品などを上層階に移動することも、被害を小さくすることにつながります。

対策が
できているのか、
チェックを
しましょう！

側溝・排水溝にたまる
ゴミや落ち葉を取り除
いて、排水をよくして
おきましょう。



被災後の生活のために準備しておくこと

- 食品や日用品を多めにストックしていますか？*1
- 避難生活に備え、必要最低限のものをリュックなどにまとめていますか？
- 避難路や避難場所を知っていますか？
- ハザードマップなどで、住んでいる地域の災害リスクを確認していますか？*2
- 近隣住民同士で協力できる体制はできていますか？

*1 賞味期限などの心配をなくするために、日常の中で消費しながら買い足すといった「ローリングストック法」と呼ばれる備蓄方法があります。

*2 ハザードマップは、自治体のホームページから入手することができます。

飲料水や食料、携帯ラジオ、懐中電灯、歯ブラシ、常用薬(お薬手帳)、携帯電話用充電器、保険証、貯金通帳のコピー、予備のメガネ、携帯トイレなどをリュックに入れておきましょう。



避難場所まで、
複数の経路を
確認しましょう。

